

# テーマ:光

南長崎第二保育園(豊島区)

## テーマを設定する

太陽の光が虫眼鏡を通して壁にうつる感じや、色水で遊んでキラキラとする感じを不思議がる様子があったので、子どもたちの興味から光の活動を展開したい。

## 活動① アーティストワークショップ1

カラーセロハンを使った蝶の羽づくりと影絵遊び

## 環境をデザインする

●準備した物 カラーセロハン、型紙段ボール、透明シート、ハサミ、セロハンテープ、投光器、影絵用スクリーン

## 探究活動を実践する

●活動内容

- ①アーティストが自己紹介 & 子どもたちの名前を一人ずつ呼んで挨拶
- ②アーティストによる影絵あそびの説明とデモンストレーション
- ③蝶の羽づくり:蝶の羽の型紙にカラーセロハンを貼り付けて、羽根の模様をデザインしていく
- ④できあがった羽を背負って蝶に変身
- ⑤カラーセロハンの羽の模様に懐中電灯の光をあてて、壁に映る色や影を楽しむ
- ⑥部屋を暗くして、二人一組で照明とスクリーンの間に入って、影絵づくりにチャレンジ(他の子どもたちは観客になって、スクリーンに映る影絵を鑑賞)
- ⑦蝶に変身したまま、全員で照明とスクリーンの間を歩き来しながら、お花畑を飛んだり、花にとまって 蜜を吸ったり、アーティストが語る物語を演じて遊ぶ
- ⑧カーテンを開けて窓ガラス越しに、太陽の光に羽の模様を透かして、自然の光と照明の光の色合いの違いを楽しんだ後、終了

●子供たちの様子

- ・ちょうちょの羽の色をつくろう:カラーセロハンを「重ねないのがこだわり」/「好きな色を何枚も重ねて、濃く深くなっていく...」
- ・ライトとの距離で影の大きさが変わると...「おとなのちょうちょと子どものちょうちょみたいだね！」
- ・陽がさしてきた窓際でお友だちと羽を重ねると...「色、かわった！」

## 活動スケジュール(4歳児クラス)

活動内容	実施日	時間/回	人数/回
① アーティストワークショップ1 講師:渡辺麻依(演出家・俳優)他1名	R6.10.30 (火)	60分程度	16人
② アーティストワークショップ2 講師:渡辺麻依(演出家・俳優)他1名	R7.2.4 (火)	85分程度	17人
③ 発表会表現遊び	R7.12.14 (土)	20分程度	17人



## 振り返りをふまえた気づき

●保育士から

- ・自由に楽しく過ごすことができた。セロハンを使う活動はこれまでなかったので、初めての体験で、子どもたちは最後まで楽しく、集中して活動できた。出来上がった蝶の羽に実際に光を当てるとどうなるか、子どもたちそれぞれに興味や関心を持って活動していたので、今後も活用しながら、子どもたちと共に楽しみたい。
- ・いつも活発な児童が黙々と集中して楽しそうに活動していた。色を重ねたり、それぞれが自分なりの楽しみ方もしていて、そうした姿が見られて感動した。
- ・セロハンテープの使い方が分からない子もいたが、活動を通して、使い方を理解して最後は使えるようになっていた。楽しい活動だったからこそ、最後まで投げ出すことなく、子どもたちの集中力が続いて、出来ないことが出来るようになったのだと思う。全身を使って表現する子どもたちの姿が見られて、とても良かった。

# テーマ:光

南長崎第二保育(豊島区)

## 活動② アーティストワークショップ2

影絵人形を製作した後、光をあてて、壁やスクリーンに影絵を投影。光や影が変化する様子を楽しんだ。

### 環境をデザインする

●準備した物 ラミネートシート、カラーセロファン、木の棒、下書き用の型紙、ハサミ、セロハンテープ、マスキングテープ、懐中電灯、投光器、影絵用スクリーンほか

### 探究活動を実践する

#### ●活動内容

- ①「今日は風船のおぼけをつくりたいと思います」おぼけ風船にまつわる絵本の読み聞かせを行い、子どもたちのイメージを広げる
  - ②子どもたちが事前につくったラミネート板(透明のラミネートシートに、色々なかたちに切ったカラーセロファンを挟んで圧着)に光をあてて、スクリーンに投影しながら、つくった子どもたちを紹介
  - ③アーティストによる影絵あそびの説明とデモンストレーション
  - ④影絵人形づくり: ラミネート板に、下書き用の図柄を重ねて輪郭を描いた後、ハサミで切り抜いていく。持ち手用の木の棒を接着して、「おぼけ風船(ふうせんくん)」の影絵人形が完成
  - ⑤「ふうせんくん」に懐中電灯の光をあてて、壁や床、天井・服などに映る色や形、大きさが変化する様子を楽しむ
  - ⑥影絵にチャレンジ。スクリーンと照明投光器の間に入って、「ふうせんくん」の影をスクリーンに投影する(映った影絵を鑑賞)
- 子どもたちの頭上に大きなポリエチレン製の幕でつくった雲が登場。「ふうせんくん」に懐中電灯の光をあててポリ幕に投影したり、アーティストがポリ幕の上から、いろいろな色に変化するLEDライトの光をあてたりしながら、光が揺らめく様子を楽しむ
- ⑦宇宙に出發。「ふうせんくん」を天井に投影して、星空をつくる
  - ⑧カーテンを開けて「ふうせんくん」を太陽の光にかざして、床に映る様子を楽しんだ後、終了

#### ●子供たちの様子

・絵本「オバケや」の読み聞かせと、おぼけ風船の影絵をみんなで鑑賞。活動への期待が膨らんでいく。「それをつくるの!」「ひとのかげがかっこいい!」

・完成したおぼけ風船を覗きこみ、色に染まった世界に見入っている。「にじいろだ…」

・懐中電灯の光を当てるとどうなるかな? お友だちの足元を光で追いつながりながら…「おぼけが追いかけてるよ!」

・大きなポリ幕が登場! 頭上に広げてLEDの光を当てると…「オーロラだ!」「こんなたのしいことできるなんて、ゆめみたい!」



### 振り返りをふまえた気づき

#### ●保育士から

- ・1回目の実施を経て、日常のなかの「光」に対して、改めて注目している子どもたちの姿が普段の保育の中でもみられるようになった。
- ・懐中電灯を使ったアプローチは初めてだったので、興味津々で活動に取り組んでいた。ポロっと出たことばをアーティストが拾って、すぐに活動に取り入れてくださったので、子どもたちもより積極的になって、楽しく参加させてもらえた。
- ・これまで全員一緒での製作活動を行ったことはなかったので、製作のスピードや道具の扱い方など、個々の特性や違いを改めて知ることができた。
- ・前回より集中して活動している子どもたちの姿があった。最初の読み聞かせの際、お話と音楽との相乗効果で、児童がグッと物語に引き込まれて集中している姿がみられた。音の効果を知る機会になった。
- ・1回目の活動の際、「光」に対する興味が薄かった子もいたが、繰り返し実施することで、内容を理解した上で、楽しそうに活動にのめり込んでいく姿があった。保育士では思いっかないアプローチや内容だったりもするので、今後も継続して実施したい。